

華蠻古今共ニ一天地一日月ナリ、差ヒ精粗何レノ處ヨリ生ズルヤ、

曰、七曜行度ノ天曆ハ、世界古今無差トイヘドモ、其考測ノ製法ニ依テ、人曆不同アリ、況ヤ華戎蠻、水土風俗、好惡別ナル事有テ、曆法律度各有異者也、曆ハ人事ノ用ニ備ヘンガ爲ナリ、四時ノ氣候、萬物ノ氣質、各方土ニ從テ有差別、是ヲ以曆各其國ニ從フ者也、況ヤ又古今ノ異有テ、造曆粗精ノ不同アリ、古曆ハ粗ニシテ今曆ハ精シ、中華ト云ドモ古曆ハ粗ニシテ、天度歲實皆三百六十五度四分ノ一ヲ用テ、日輪盈縮ノ差ヲ不立、月行ノ遲疾ヲ不算、只平行分ヲ以算之、故ニ經朔經望ノ法而已有テ、定朔定望ヲ不立、故ニ多ク月朔ヲ誤リテ日食ヲ失シ、望ヲ誤リテ月食ヲ失ス、是皆曆術ノ未ダ簡略ナリシ故也、自夫已來數千歲ヲ經タル故、漸ク曆法精密ニ成テ、今曆ノ度分三百六十五日二十四刻二十五分ヲ用ヒ、歲差ノ法ヲ立テ、盈縮遲疾ヲ詳ニシ、定朔ヲ求メ定ム、是ヲ以日月ノ兩食誤ル事無シ、是曆法ノ大成也、何ゾ古法ノ簡略ニ復ランヤ、況ヤ戎蠻疎略ノ曆術ヲヤ、大明ノ初メ、回回國ノ曆法中華ニ入テ、大統曆ト並ビ試ラレシカドモ、其法不密、故ニ終ニ用ラレズト云リ、回回曆ハ中華ノ曆法ニ近シト云リ、此等無用、況ヤ蠻曆ヲヤ、〔太皞古曆傳^四〕好尙云、またの稿に、日月星辰復始甲寅元とは歲月を甲寅に起せる耳に非ず、日時^{の元}をも甲寅より始めしこと更に論ひ無き物にて、謂ゆる作曆の元年は、甲寅歳の甲寅月の朔且立春やがて甲寅日にて、其晨寅時をやがて甲寅に定めしこと疑無くなむ、其は日月星辰と有^ひ、辰は即時をいひ、月とは孟春正月に云ひ、日とは其朔且立春を云る語なるを以て、知^{日行一度}べし、若然らずとして、日月星辰復始甲寅元と云こと總て意なき語とぞ成るめ、而歲有奇四分之一は、既に上に説たるが如し、故四歲而云々とは、四歲の日數、すべて千四百六十日と、彼八分づ、四を合すれば、四八三十二分にて一日なる故に、千四百六十一日にて餘分なし、之を復合とは云り、故舍八十歲而復故とは、まづ八十歲は四歲を二十合せたるにて、舍とは歲星の舍りを云ひ、八十舍して八十歲を爲すが故にかく云り、此日數凡二萬九千二百日と、かの八分